

OPPシートを活用した高校国語の授業スタイル改善に関する研究 —生徒が学び方を学ぶ学習を目指して—

A Study of Improvement on Japanese Lesson Style by Using OPP Sheet in High School:

Aim to make lessons in which students learn how to study on their own

小澤典子* 堀哲夫**

OZAWA Noriko HORI Tetsuo

要約：筆者の一人小澤は、生徒の受動的な授業態度や、学ぶ意味を感じていない様子に授業の課題を感じていた。高校で多く用いられている講義式の授業スタイルを検討することが、筆者の課題解決につながるのではないかと考えた。本研究では、授業の在り方を検討し、授業スタイル改善を図った。そこで、OPPシートを取り入れて、生徒が主体的に授業に取り組み、学び方を学ぶ学習を目指して実践を行った。OPPシートにおける生徒の記述を見とり、それに対する教師の働きかけを行うことにより検証した結果、以下の四点が明らかになった。第一に、学習目標達成を生徒と教師がともに授業の目標とする授業スタイルへ改善するための構造。第二に、生徒が主体的に活動する授業スタイルとその有効性。第三に、年間授業計画に学習活動の意味づけ・価値づけを取り入れることの重要性と必要性。第四に、学び方を学ぶ学習により生徒の資質・能力を育成できること。

キーワード：OPPシート 授業スタイル 学び方 学習活動の意味づけ・価値づけ
学習による変容

I はじめに

筆者の一人小澤は、授業で生徒に発問しても意見を言わないこと、考えているのか、学んでいるのかが不明なことなどに関して課題を感じていた。こうした生徒の実態は、受動的な授業態度で、授業よりも部活動や友達との遊びを重視しているように見え、学ぶ意味を感じているのだろうかという疑問に思っていた。生徒が主体的に学び、楽しいと思ってくれる授業の改善が求められていた。

II 先行研究

OPP (One Page Portfolio) シートを用いた授業力向上や授業改善に関する研究は多く行われている。しかし、高校の国語において、生徒が学び方を学ぶ学習を目指した授業スタイルの改善をしようとした研究はほとんど行われていない。

III 研究の目的

本研究の目的は以下の四点である。

1. OPPシートを活用した高校国語の授業スタイルの改善を検討し、提案する。

* 山梨県立農林高等学校 ** 元教育実践創成講座

2. 生徒が主体的に活動する授業の有効性を検証する。
3. 1と2により、生徒が学び方を学ぶ学習を目指し、年間の授業計画改善を提案し実践する。
4. 生徒が学び方を学ぶ学習を目指すことにより、資質・能力の育成を図る。

本研究では、授業スタイルとは、授業の在り方であり、教師の教育観が具体化されたものとして捉えている。具体的には、授業において教師は生徒が主体的に活動するよう常に働きかけ、生徒と教師がともに学習目標の達成を目標として取り組んでいく授業を目指すことである。

IV 研究の方法

1. 実習は、2013年4月から2014年2月まで、県立のK高等学校において国語総合現代文分野で年間を通して行った(表1参照)。

2. 表1、左欄1～7の全単元でOPPシートを活用し、授業スタイルの改善を図った。

3. 年間を通してOPPシート、ホワイトボードを活用し、生徒が主体的に活動するよう働きかけた(表1、図1、図2参照)。

4. 後期授業開始時にOPPシートの学習履歴欄に記述すべき内容の検討と、生徒各自の4月と9月のOPPシート記述の比較を行い、学習活動の意味づけ、価値づけを行った。

5. 学習活動の意味づけ、価値づけ後の生徒の変容について、OPPシートの記述を見とることで学習効果の検討を行った。

表1 年間を通した国語総合の授業概要と働きかけ (全66時間)

学期	単元	時数	内 容	主体的活動への働きかけ	
				生徒	教師
前 期	導入	2	図書館オリエンテーション 国語授業ガイダンス	図書館で司書による図書館オリエンテーション アイスブレイクのワーク	
	1	10	随想『ぐうぜん、うたがう、読書のススメ』川上未映子	ホワイトボードの活用 ほぼ毎時実施 問いについて ①各自での取り組み ②4人程度のグループでの話し合い ③各グループの発表 ④クラス全体での意見交換 ⑤再度各自での取り組み	OPPシートの活用 ほぼ毎時実施 ①学習前の問いに対する記述 ②毎授業終了時、学習履歴欄に記述 ③随時、学習履歴欄における教師からのコメントに答える等、追加の記述 ④単元終了時、 ・学習履歴の振り返りとその記述 ・学習後の問いに対する記述 ・自己評価欄に記述 ・タイトルをつける ・感想・要望等記述
	2	12	小説『青が消える』村上春樹		①指導目標の設定 ②OPPシートを作成 ③生徒の記述による実態の見とり ④生徒の記述にコメント ⑤上記③をもとにした次時の授業改善、指導目標の修正 ⑥生徒が完成させたOPPシートの記述を見とり、同単元次回実施時に向けて改善
	3	8	評論『森に起きていること』佐藤洋一郎		
	4	4	詩『旅上』秋原朔太郎		
後 期	★	4	・OPPシート学習履歴欄に書くべきことの検討 ・生徒各自4月と9月のOPPシートの比較	単元1～4と同様のホワイトボードの活用 単元1～4で用いてきたOPPシートの活用 学習活動の意味づけ・価値づけ	
	5	10	小説『羅生門』芥川龍之介	単元1～4に同じ コンセプトマップの作成、自発的発言	単元1～4に同じ
	6	8	短歌・俳句 各七首・七句	模造紙を用いたプレゼンテーション ①自分が取り組みたい短歌・俳句の選択 ②各短歌・俳句ごとのグループでの調べ学習 ③各グループの発表 ④各自で鑑賞文作成 ⑤鑑賞文の交流 ⑥気づいたこと、考えたことを記述	単元1～4に同じ
	7	10	小説『なめとこ山の熊』宮沢賢治	単元1～4に同じ	単元1～4に同じ

【学習前】

○この感想で筆者が最も伝えたいことはなんですか。
今のうちから、さまざまな種類の本を読んでほしい。そして、多くの経験を積むことが大切だ。
どんな本でも、まずは自分で確かめて。

【学習後】


○この感想で筆者が最も伝えたいことはなんですか。
くうぜんとは一回性で自分の想像を超えるものなので、どんな本でも一度は読んでみて、新しい自分に出会ってほしい。
枠から外れて、うたがうをやってみてほしい。

くうぜん、うたがう、読書のススメ

くうぜん、うたがう 読書のつながり

1年組番

氏名 _____



※ここが一番最後の授業で記入します。
【授業を終えての質問・感想があったら何でも書いてください】
自分のしている「くうぜん」と「うたがう」の意味を筆者が、自分の想像を超えるもの、新しい自分に出会うこと書いているところが、いいなと感じた。特に、作者の言った、枠から外れたという新しい考えを見て、自分も枠にとどまっていたと思えた。
「くうぜん」も「うたがう」も、人生において大切な一部だということがわかって、楽しんでいる、おもしろいと思う。
何かのきっかけで、しり合わせできたらいいな！

○学習前・学習中・学習後を振り返ってみて、何がわかりましたか？どのように変わりましたか？
○また、わかったことや変わったことについてあなたはどのように思いますか？
どんなことでも構いませんから自由に書いてください。

内容の理解が深くなり、作者の本当の思いは近づくことができた。
うたがう、この本は面白くないか？ して、この本は自分にとって、どう思っていますか？

A: 作者の言っている「くうぜん」= 人生の一部、「うたがう」= 枠から外れたことが、
おもしろいから理解が深まった。

A: いつも読んでいた本以外の本にも目を付けて、自分も「くうぜん」「うたがう」にチャレンジした。羨望が湧いてくる！

図 1-1 作成した単元 1 の OPP シートへの生徒の記述 (生徒 A) シートは三つ折りで使用：裏面

【学習履歴】 1年組番氏名 _____

①タイトル くうぜん & うたがう マニア
○今日の授業で最も大切だと思うことを書きましょう。
作者がマニアの語の中で「くうぜん」「うたがう」を別々の語で使っているのことに気がつくこと、自分もこの本を好きになること。
○質問や感想があったら書きましょう。
うたがうが、遠慮してくなくとも、うたがうが、面白くないから、早く読んでみたい。

②タイトル くうぜんとは？ - 一回性について
○今日の授業で最も大切だと思うことを書きましょう。
くうぜんとは、予想外の出会いであったり、一回性で自分の想像を超えるものなので、どんな本でも一度は読んでみるべきだ。
○質問や感想があったら書きましょう。
各々がそれぞれ「くうぜん」がそれぞれ違う、面白かった。


③タイトル くうぜん、うたがう、読書のつながり
○今日の授業で最も大切だと思うことを書きましょう。
うたがう、おもしろい。くうぜん、人生、一回性、読書、新しい自分に出会ったこと。
うたがう、おもしろい。くうぜん、人生、一回性、読書、新しい自分に出会ったこと。
○質問や感想があったら書きましょう。
うたがうが、おもしろいので、人生の一部とわかった。

④タイトル 新たな自分に出会うこと
○今日の授業で最も大切だと思うことを書きましょう。
くうぜんは人生の中のひとつの出発点であり、それによって、偶然とは自分にとって、ものすごく大切なこと。
○質問や感想があったら書きましょう。
くうぜんについて、よくわかってきたので、深く考えていきたいと思えた。羨望的。

⑤タイトル _____
○今日の授業で最も大切だと思うことを書きましょう。
○質問や感想があったら書きましょう。

⑥タイトル _____
○今日の授業で最も大切だと思うことを書きましょう。
○質問や感想があったら書きましょう。

くうぜん、うたがう、読書のススメ



今までの学習履歴を見て、感じたこと・気付いたことを書きましょう。
くうぜんとは、予想外の出会いで、自分の想像を超える一回性のものであった。
うたがう、おもしろい。くうぜん、人生、一回性、読書、新しい自分に出会ったこと。
作者は、このように理解して伝えていると思う。




図 1-2 作成した単元 1 の OPP シートへの生徒の記述 (生徒 A) シートは三つ折りで使用：表面

- 243 -

V 研究の結果と考察

1. OPPシートを活用することにより明らかになった授業スタイル改善の構造

OPPシートの生徒の記述を見取ること、授業スタイルが改善されたかどうか判断した。具体的には、教師の指導目標を生徒の実態に即して修正し、授業を再構造化し、生徒の学習目標の達成を生徒と教師がともに目指すスタイルができたかどうかを見取ることである。詳細は以下の四点になる。

第一に、教師は授業前に単元ごとにOPPシートを作成する。その時、単元の指導目標（指導目標A）を踏まえて本質的な問いを設定し、授業を構造化する。シートの作成そのものが授業の構造化を図ることにつながっている。

第二に、授業導入時、生徒にOPPシートの本質的な問い（学習前の問い）に取り組ませることで生徒の疑問を喚起し、学習目標を持つことを促す。

第三に、授業実施中に、OPPシートの生徒の学習前の問いへの記述や、学習履歴の記述を教師が見取ること、生徒が持つ学習目標を把握する。このシートの記述の見取りから、生徒の学習目標に即した毎時の指導目標（指導目標B）へと修正と生徒の活動への働きかけを行うとともに、授業の再構造化を図る。

第四に、授業終了後に完成したOPPシートを教師が見取ること、単元全体の授業評価を行う。その後、次単元の指導目標Aの設定に反映させたり、次の同一単元での指導目標Aの修正や授業改善につなげたりする。

このようにOPPシートを用いることによって、生徒の実態が可視化され、把握できる。そのため、生徒の学習目標に即した授業スタイルに改善できることが明らかになった（表2参照）。

2. 生徒が主体的に活動するための働きかけとしてのOPPシート、ホワイトボード利用の有効性

毎時の授業でOPPシートには授業で最も大切だと思うことを生徒にまとめさせている。それを書くためには、授業内容について、最も大切なことは何かを自分で考え、判断し、表現する必要がある。生徒に主体性を求める働きかけである。

単元1を取り上げて説明する。単元1第2時（K校は50分2コマ連続授業のため、表1の時数3、4時間目にあたる）では各自で「ぐうぜんについて考え」（図3内のタイトル参照）、その考えをもとにホワイトボードを用いてグループで話し合い、発表し、クラス全体で意見交換をした結果、「『自分の力じゃどうにもならないこと』と答えを出せた」のであり、「皆の考えをきいて自分の考えを深めることができた（図3参照）」のである。

深められた考えについて最も大切なことは何か

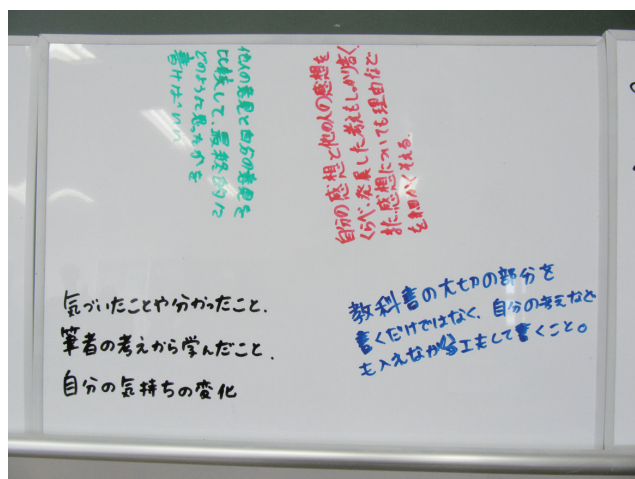


図2 生徒が発表したホワイトボード

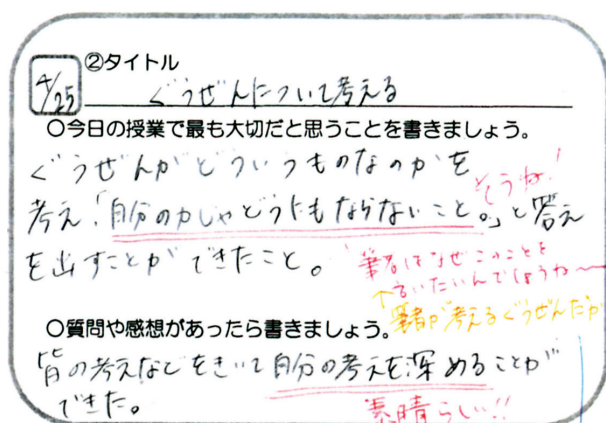


図3 単元1の学習履歴（生徒B）

表2 OPPシートを活用して行う授業スタイル改善の構造

OPPシートへの取り組み	
生徒	教師
授業前	<p>〈OPPシートの骨組みの作成〉</p> <p>① 単元の指導目標（以後指導目標Aとする）を立てる ＝本質的な問いを考える → OPPシート学習前後の問いとして記述するとともに、学習後に生徒に書いてもらいたいことを記述</p> <p>② 指導目標達成を目指し、授業を構造化 → OPPシートに毎時の指導目標（以後指導目標Bとする）を記述</p>
授業導入時	<p>〈OPPシート学習前の本質的な等の記入を指示〉</p> <p>① 生徒にOPPシート学習前の欄に取り組むよう指示（書けない生徒は「わからない、書けない」と書いても良い） ※素朴概念を外化させることが重要なので、頭に浮かんだことを素直に書くよう声をかける</p> <p>② 生徒にどうすればこの作品がわかるかを問う ＝学習目標を持たせる働きかけ</p> <p>③ 生徒から出てきた意見について、何について、何から取り組むか生徒に決めてもらう ＝学習目標の決定をクラス全体で共有 ※教師は司会者、ファシリテーターに徹する</p>
授業実施中	<p>〈OPPシート学習履歴の記入〉</p> <p>① 学習目標達成を目指して取り組む</p> <p>② OPPシート学習履歴欄に今日の授業で最も大切だと思うことを記述</p> <p>③ 随時、教師のコメントへの再記述等、学習履歴欄へ記述を追加</p> <p>〈OPPシート学習履歴欄への記入の指示・記述の見とり〉</p> <p>① 授業導入時4で決まったこと ＝学習目標と、あらかじめ立てておいた指導目標A、指導目標Bとを照らし合わせながら、授業実施</p> <p>② 生徒が記述した学習履歴を見とり、生徒の記述にコメント、次時の指導目標Bを修正 ＝授業の再構造化</p> <p>③ ①、②に基づき、生徒の学習目標達成を目指し、授業実践</p>
授業終了時	<p>〈OPPシートを完成させる〉</p> <p>① 学習履歴を振り返り、記述</p> <p>② 学習後の問いを記述</p> <p>③ 学習前・中・後を振り返り、自己評価を記述</p> <p>④ 次時以降取り組むべき学習目標の発見</p> <p>〈OPPシートを完成させるよう指示〉</p> <p>① 学習履歴を生徒とともに振り返る</p> <p>② 学習履歴の振り返り、学習後の問い、自己評価、自分なりのタイトル、感想、疑問の記述を指示</p> <p>③ 記述が進まなかったり、不十分だったりする生徒への個別対応 ※生徒が出来ていること、わかっていることを認識できるように働きかける</p>
授業終了後	<p>〈OPPシートから、改善と評価を行う〉</p> <p>① 本単元でのOPPシートによる見とりを次の単元の指導目標に生かす</p> <p>② 次回の同一単元実施時に向けて指導目標、授業構造を改善する</p>

を判断し、OPPシートに記述しているのである。生徒の思考力・判断力・表現力が発揮されていることがわかる。

この生徒は、生徒同志の交流によって多様な見方が認識でき、自己の見方の不十分な点に気づいている。教師による講義式の授業スタイルではなかなかこうはいかない。皆の意見を聞いて自分の考えを深めようとする学ぶ意欲が向上し、自分が気づかないことは他の人から学ぶという必然性が感得できていると考えられる。

こうした学習は、OPP シートやホワイトボードを利用することにより可能になったといえる。

3. 学習活動の意味づけ、価値づけを行う重要性と必要性

後期授業開始時に、教科書にはない内容の授業（表1「★」参照）を行った。その授業とは、まず OPP シートの学習履歴にどんな内容を書いたら良いのか各班で検討し発表させ（図4、図5参照）、次に生徒各自の4月と9月の OPP シート記述を比較させる（図6参照）のである。

これは、生徒が学習活動を振り返ったり、比較したりすることで、学習活動の意味や価値を認識するための働きかけである。今までの授業では、学びに焦点を当て生徒に考えさせることはしていなかった。自分がそれまで書いてきた OPP シートの学習履歴における「授業の一番大切なこと」の具備する条件を考えさせることにより、学習履歴の質を高め、その意味を感得させるのである。こうした活動を通して、生徒に OPP シートの機能や学び方に気づかせるとともに、自分の思考についての思考であるメタ認知を育ませようとした。

(1) OPP シートの学習履歴に書くべき内容を検討する重要性と必要性

OPP シート学習履歴欄に書くべき内容を検討させることにより、生徒は、考えて書くこと、自分なりにまとめて書くこと、その時に自分が大切だと思うことや友達の見解を取り入れることなどを指摘している。学習活動を振り返ることで、「自分なりに」という主体性の重要性が認識できている（図4参照）。この活動で気づいたことや考えたことを書かせたところ、「学んだこと・大切なことを振り返り、自分の学びを見直すことができる。過去の自分と比較して成長がわかる。」（図4参照）と、OPP シートの機能を理解するとともに、自己の学びをメタ認知し、成長を実感している。

また、図5の生徒は、学びの経緯について「課題という問題意識の中から出るキーワードからつなげ、まとめる→それに対し他の意見の比較をいれる→比較したものに自分の考えや気持ちをかく、更にその課題がなかったらと仮定した場合の考えや、これからすべきことについての考えを書く→最後にそれを通して自分の気付いたこと考えや意見の変化をまとめる」と記述している。自分の学び方についてメタ認知しているといえる。こういう自分についてどう思うか教師がコメントを通して聞くと、「考え方が成長しているのかなとか自分の見解が広がった」と、成長を実感し、自己効力感を持てたことがわかる。

このように、OPP シートの学習履歴欄に書くべき内容を検討させることにより、生徒は毎時記述している学習履歴の働きとその持つ意味を明確に認識するとともに、OPP シートの機能を理解し、学びかたを学び、成長することが明らかになった。

したがって、OPP シートの学習履歴欄に書くべき内容を生徒に検討させる活動は、自己効力感を持ち、メタ認知能力を育てるために重要で必要な働きかけだと言えるだろう。

2. 生徒各自の OPP シート 4月と9月の記述の比較の重要性と必要性

次に、4月と9月の OPP シート学習履歴欄の記述を比較させたときの生徒の気づきについて検討する（図6参照）。それは以下の六点にまとめることができる。第一に、記述量の増加、第二に、理解力、記述力の向上、第三に、成長の実感、第四に、思考過程のメタ認知、第五に、学ぶ意味の感得、第六に、学習意欲の向上である。

こんなに多くかつ重要なことに生徒が気づき、枠をはみ出すほど記述したことにわれわれも驚いた。このシートに取り組んだ時間は20分余りであるが、生徒は夢中になってペンを走らせていた。生徒はひたすら自分と向き合い、考え、学びを書き綴っていた。生徒の主体的に学ぶ姿が見られた。「今回こういうことをできてよかった」と生徒が記述しているように、4月と9月の OPP シート記述

2013/10/03 OPPシートの学習履歴欄にどんなことを書けばよいのかについての各班の発表

①

自分が普通に思ふことも次の授業でどう思ふか書いていけばいいかなと考えるのが書いていくことが大事だと思った。	次の授業につながることを書く
授業で学んだことを最も大切なことと書く。	授業の中で大切なことと書いたことを書く。

1班

⑧

物語の内容を理解し、自分なりにわかりやすく変化させてまとめる

- 自分と筆者を比べて、新たに発見は何かを重要と認めること。
- 前回の意見と比較し、前回の時と今とはどう考えが違ってくるかを見ること。

8班

③

シートにどんなことを書けばいいかな? 3班

...モ、力をつけるために

授業を聞いて思ったこと、考えたことを書く。

また、友達との意見交換、意見を参考に考えたことも書く。

読んだことをちゃんと考えて書く。そして友達の見解を参考にもう一度考え直す。その日にやったことへの疑問やまじい、自分の考えなどや皆の意見を聞いての自分の答えを書いたりすれば、新しい発見につながると思う。

⑨

授業中に感じた自分の気持ち。	感想
学習を通して、自分が理解したこと、詳しく書く。	自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

⑦

- その日の授業を振り返ることができる。
- 思いだす考える
- 自分が大切に思ふ所と、周りの人が大切に思ふ所を自分なりにまとめる

10月1日の授業

④

- 思ったことを素直に書く
- 他の人の意見と自分の意見とを比較する更にそれについて考えたことを書く
- 大切に思ふこと(2)をあげていく!!!
- 授業で最も大切に思ふことを書く

学習履歴の今日授業で最も大切だと思うことを書きましょう!! どう書けばいいの? 2はん

授業の内容をまとめ、その日の自分にとって大切に思ふことを記入する!!

この日の授業で最も大切だったことを書く。

授業中に感じた自分の気持ち。

授業の内容をまとめ、その日の自分にとって大切に思ふことを記入する!!

授業中に感じた自分の気持ち。

感想

自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

学習を通して、自分が理解したこと、詳しく書く。

自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

授業中に感じた自分の気持ち。

感想

自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

学習を通して、自分が理解したこと、詳しく書く。

自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

授業中に感じた自分の気持ち。

感想

自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

学習を通して、自分が理解したこと、詳しく書く。

自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

授業中に感じた自分の気持ち。

感想

自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

学習を通して、自分が理解したこと、詳しく書く。

自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

授業中に感じた自分の気持ち。

感想

自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

学習を通して、自分が理解したこと、詳しく書く。

自分の考えの変化。(筆者の考えなど)自分の考えを整理する。もし考えが変わる。

⑤

自分の考えを書き、他の人の考えを聞いて、関心をあつたことをまとめる。

自分の考えを書き、他の人の考えを聞いて、関心をあつたことをまとめる。

自分の考えを書き、他の人の考えを聞いて、関心をあつたことをまとめる。

自分の考えを書き、他の人の考えを聞いて、関心をあつたことをまとめる。

⑥

- 自分が大切に思ふことを書く。
- 自分が大切に思ふことを具体的に書く。
- 先生に質問を返さないうことを書く。
- 自分がその時大切に思ふことを書く
- 自分が考えたことをし、かりとまとめる。

気がついたこと・考えたこと 名前

授業で感じたこと・大切なことを

お礼がえる事後で今まで 自分の学

と見直す事ができ、整理したこの時と

比較することでき、せいちうがわかる

図4 学習履歴欄に何を書いたらよいのかの検討とその内容 (生徒C)

気づいたこと・考えたこと 名前

課題という問題定義の中からキーワードからつけていきまとめる
 → それに対して他の意見と比較をいれる → 比較したときに自分の
 考えや気持ちをかき → 更にその課題をなくした。どうしたらいい
 かなどのことからの考えをかき → 最後にそれを直して自分の気づ
 いたことと考えや意見の変化を考えてまとめる
 どういう自分について、どう思いますか?
 考えが成長しているから自分の見解が広がった、と思います。

図5 学習履歴欄に書くべき内容の発表後の気づきや考え（生徒D）

の比較は、生徒の知識・理解・技能を高めるとともに、資質・能力の育成に効果があることを示している。

一枚のシート上で生徒が外化した記述を可視化して示し、月日を経た学習による自己の変容を具体化していく。それが生徒自身に気づきをもたらしている。学習活動の意味づけ、価値づけは教科書にはない内容だが、生徒の学びにとってきわめて有効であるといえるだろう。

この取り組みから、生徒の資質・能力の育成にとって、学習活動の意味づけ、価値づけという働きかけが年間の授業計画作成に重要な役割を果たしていると判断してよいだろう。

4月の記述

③タイトル
 気づいたこと・考えたこと

○今日の授業で最も大切に思うことを書きましょう。
 「気づいたこと・考えたこと」を記入する。

○疑問や感想があったら書きましょう。

9月の記述

③タイトル
 気づいたこと・考えたこと

○今日の授業で最も大切に思うことを書きましょう。
 「気づいたこと・考えたこと」を記入する。

○疑問や感想があったら書きましょう。

○4月の記述と9月の記述とを見比べてみて、何がわかりましたか？どのように変わりましたか？
 ○また、わかったことや変わったことについてあなたはどのように思いますか？
 どんなことでも構いませんから自由に書いてください。

（4月の）全体的に「気づいたこと・考えたこと」を記入していましたが、
 今月には量が増えたと感じました。この報告月では「気づいたこと・考えたこと」を記入するだけでなく、
 「気づいたこと・考えたこと」を記入するだけでなく、
 「気づいたこと・考えたこと」を記入するだけでなく、
 「気づいたこと・考えたこと」を記入するだけでなく、

分析・考察が深く、素晴らしいです。気づいたこと・考えたこと、成長していることがよくわかります。

図6 OPPシート4月と9月の記述の比較（生徒B）

4. 学習活動の意味づけ、価値づけ後の生徒の変容

(1) 自己評価欄に表れた学びの質の向上

表1「★」前後の単元3と5の自己評価欄記述内容を比較すると、生徒の学びの質の変容が見られる(表3参照)。本文の内容をまとめたただけだった記述が、自分なりの考えを付け加えたり、わかるようになった理由やわかった自分についてメタ認知したりする自己評価に変わった。それを踏まえて、これからこうなりたいと学習目標に関する記述も増えた。他にも、矢印で結び自分の意見を図式化したり、本文の内容をより一般化して客観的に述べたり、楽しさや意欲を示したりする生徒も増えた。

学習活動の意味づけ、価値づけ後は、生徒の学びの質が向上し、この働きかけが重要であることを表しているといえる。

表3 表1「★」授業実施後のOPPシート自己評価欄記述の変容(N=58名 複数項目抽出)

記述要素	単元3	単元5
内容のまとめ	33	16
自分なりの考え	18	23
学び方	14	19
構造化	13	11
学習目標	2	17
メタ認知	8	15
意欲	9	15
達成感	1	1
変わらない	1	4
わからない	0	1

(2) 学習履歴、自己評価欄における変容の事例

図7～10は同一生徒のOPPシートにおける学習履歴の記述である。単元1では、最も大切なことについて本文を抜粋している。ただ、「自分の考えを皆に伝えることができよかった」と自分の考えを持ち、伝えるという主体的活動はできている。ホワイトボードを用いた話し合い活動の有効性を表している。その生徒なりに自己効力感を得ていることがわかる。不十分な点はあるが、この段階でもよく学んでいるといえる(図7参照)。

一方、表1「★」の授業後である単元5では以下の八点の変容が見とれる(図8、図9、図10参照)。

第一に、記述量が大幅に増えた。

第二に、第2回の授業(表1、時数の第3、第4時、K校は50分2コマ連続授業)の段階で「毎回の授業を通していろんなことをりかいて最後に『こういうことか!』とりかいて終わるようにしたい(図8参照)」と単元を通しての学習目標を持ち授業にのぞみ、さらに、授業の構造化を認識できるようになっている。

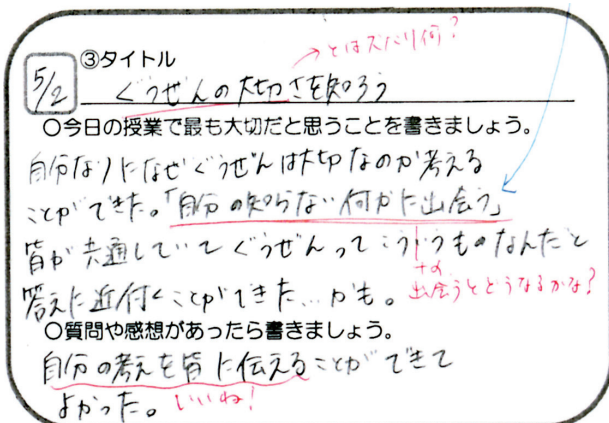


図7 単元1のOPPシート記述例(生徒B)

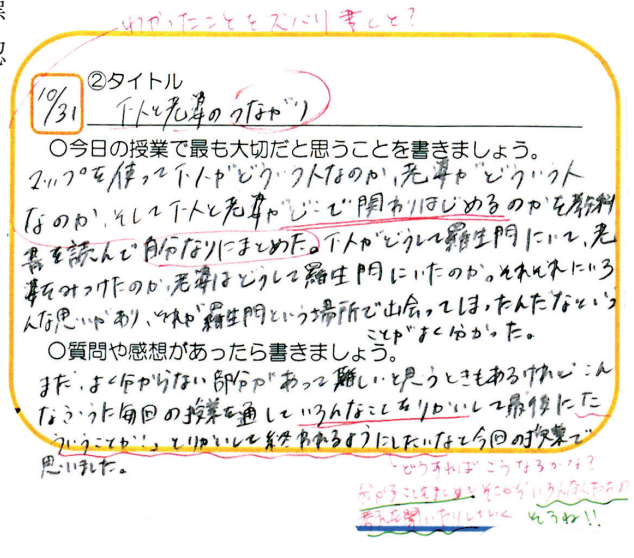


図8 単元5のOPPシート記述例(生徒B)

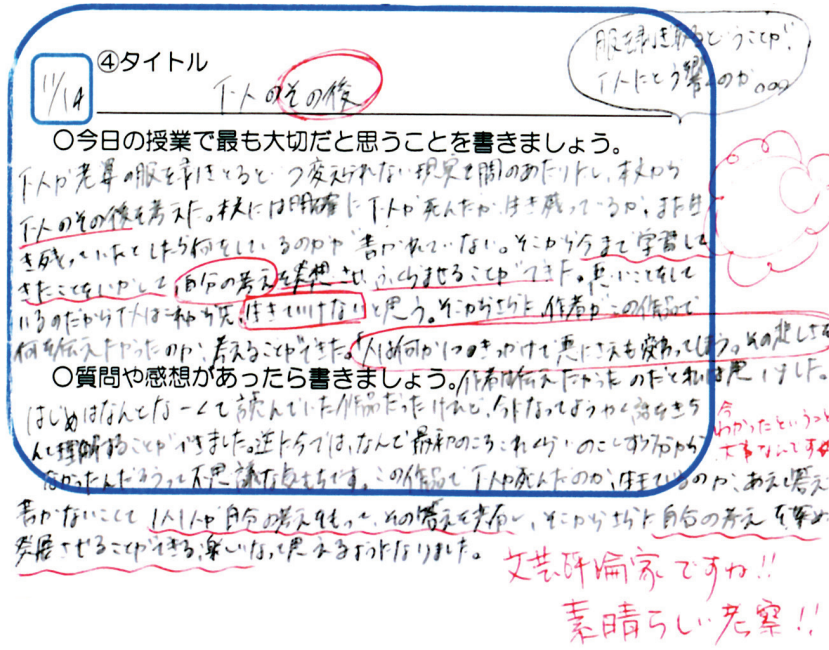


図9 単元5のOPPシート記述例 (生徒B)

第三に、教師のコメント「どうすればこうなるかな?」と学び方を学ばせる働きかけに対し、「わかることをまとめてそこからいろんな人たちの考えを聞いたりしていく」(図8参照)と具体的に返信し、学び方を学んでいることを示している。

次に、第四から第九については、第4回の授業の学習履歴である図9(表1、時数の第7、第8時)の記述を示し、説明する。紙数の関係から要点のみ示す。

第四に、この生徒は、「人は

何か1つのきっかけで悪にさえも変わってしまうと伝えたかったのだ」と小説のテーマに迫るまで考えが深まっている。

第五に、「この作品で下人が死んだのか、生きてるのか、あえて答えを書かないことも1人1人が自分の考えを持って、その答えを共有し、そこからさらに自分の考えを深め発展させることができる」(図9参照)と学ぶ手ごたえを感得している。

第六に、「楽しいなって思えるようになりました」(図9参照)と学ぶ意欲が向上している。

第七に、「学習中は、たくさんのことを本当に勉強しました。でも、読んでも内容を理解することはできませんでした。内容が全くわからないままメッセージ(筆者注:学習前後の問いのこと)を考えるのは不可能だしまったくもって自分のためにはなりません。1つ1つまとめていく必要がありました。」(図10参照)と学びの経緯をメタ認知している。

第八に、「そこから小さなことを少しずつ理解していき」(図10参照)と学び続ける姿が見とれる。

第九に、「いろんな投げかけられた問題について『考えて』理解を深めていくことが正しい学習の仕方だと思います」(図10参照)と学び方を評価している。

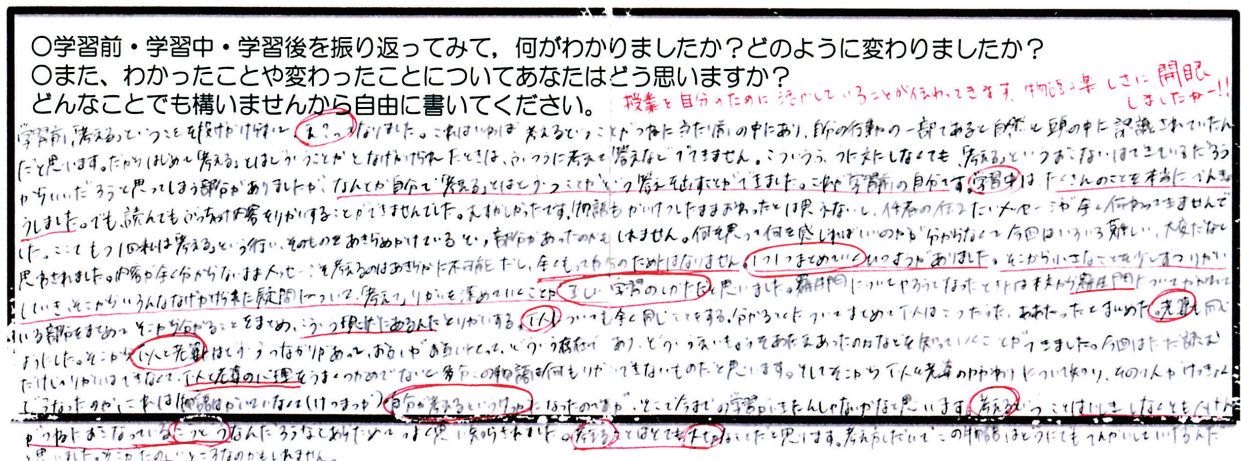


図10 単元5のOPPシート自己評価欄記述例 (生徒B)

上であげた知識・理解・技能および資質・能力の向上は、授業の第2回目で生徒が自ら学習目標を持ち学びの過程を学習履歴として外化し、可視化してきたからこそ、目標達成を自己評価できたといえるだろう。

(3) 感想欄における変容の事例

図11は図7～10と同一生徒の単元5のOPPシート感想欄への記述である。この欄は、単元の最後の授業が終わってから書くことになっている。そこに書かれた内容の特徴を以下五点あげておく。

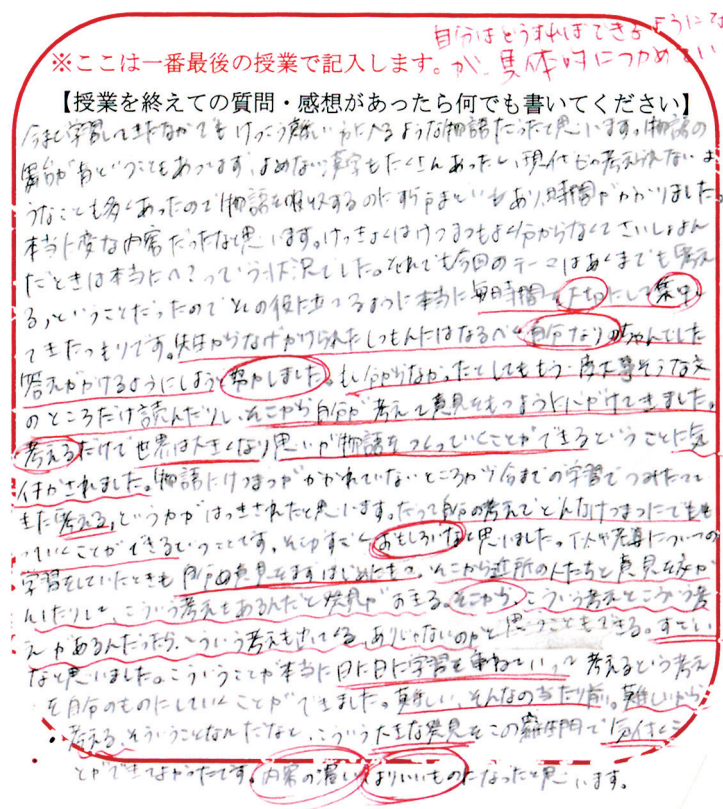


図11 単元5のOPPシート感想欄記述例（生徒B）

第一に、学ぶ意味の感得の記述。「今回のテーマはあくまでも『考える』ということだったので、その役に立てるよう毎時間大切に集中してきた。」

第二に、学習意欲を示す記述。「先生から投げかけられる質問にはなるべく自分なりのちゃんとした答えが書けるよう努力した。」

第三に、学び方を学ぶ記述。「もしわからなかったとしてももう一度大事な文のところだけを読んだり、そこから自分が考えて意見を持つように心がけました。」

第四に、自己効力感の記述。「考えるだけで世界は大きくなり思いが物語を作っていくことができるということに気づかされました。物語に結末が書かれていないところが今までつみたててきた「考える」という力が発揮されたと思います。だって自分の考えでどんな結末にでも持っていくことができるということですよ。」

再度、学習意欲と学び方を学ぶについての記述。「凄く面白いなと思いました。下人や老婆の学習をしていた時も、自分の意見をまず始めに持つ。そこから近所の人たちと意見を交換したりして、こういう考えがあるんだと発見が起きる。多様な考えについて、いろいろ考えることで、自分なりの考えができる。」

第五に、メタ認知の記述。「すごいなと思いました。こういうことが本当に日に日に学習を重ねて

いって考えるという考えを自分のものにしていくことができました。大きな発見。」

以上より、少なくとも今回行った授業に関しては、生徒Bが学び方を学び、資質・能力を育めたといえるだろう。

VI 全体考察

1年間の授業の最後に「4月頃の自分と比べて変わったと思うところはどんなところですか？」「OPPシートを1年間使ってみてどうでしたか？」という二点について記述してもらった。

以下の結果（表4参照）が示すように、生徒は自分の何が良くなったか、何について学べたかについて記述している。これは自分の学びについてメタ認知していることを示している。表4での「思考力・判断力・表現」の項目では、半分もの生徒が、「ポイントを自分の言葉で、自分なりに考えて、文章をまとめて書く力がついた」と記述し、10名以上の生徒が「読解力がついた、内容のつかみ方がうまくなった、大切なところが見つけれられるようになった」と記述している。

「OPPシートの機能」の項目では、「学習前後で考えが変わるのでそれを出すのが楽しい」とOPPシートの機能を把握することによって、意欲が喚起されていることを記述する生徒もいた。

そして、「学ぶ意欲」の項目では、「一生懸命勉強するようになった」と記述する生徒もいた。

これらのことは、授業でいつもやるという繰り返し働きかけることの必要性と重要性や、自分がやっていることについてなぜするのか、何のためにするのかと考えるよう働きかけることの必要性と重要性を示している。

表4 OPPシートを利用した生徒の感想
(N=65 複数項目抽出)

	4月頃の自分と比べて変わったと思うところはどんなところですか？	OPPシートを1年間使ってみてどうでしたか？
知識・理解・技能	25	4
思考力・判断力・表現力	62	22
学ぶ意欲	13	8
学び方	12	15
OPPシートの機能	2	30
学ぶ意味	0	16
成長の実感	4	20
コミュニケーション能力	1	0

本研究を通して、生徒の主体的活動に任せることによって、生徒が力を出せる、自分で学ぼうとすることがわかった。生徒は力を持っており、教師はその力を信じ、生徒に任せることによって、生徒は学びを自分のこととして捉えるようになり、自ら考え学んでいくのである。

もちろん、生徒に任せきりではいけない。生徒がより学びやすいように、教師は振り返りを促すなど指導、助言したり、新たな活動方法を提案したりして支援することが必要であり重要である。生徒が学習目標を持つよう働きかけ、その目標実現に即して、教師が指導目標として掲げるつきたい力をつけていく授業スタイルが必要とされている。

VII おわりに

生徒が自分の頭の中にあることを外化することが授業の出発点であるとわれわれは考えている。わからない場合は、わからないという現状を外化することが必要である。なぜなら、自分の頭の中を外化し、可視化することによって学習前の自分を明らかにしておくことが学習中および学習後との比較を可能にするからである。

しかし、高校生は、まちがえたくない、正しいことだけ知ればよいという思いが強く、素直に自

分の考えを外化することが難しい。だからこそ、OPPシートの学習前の問いで、素朴概念を外化させることが重要なのである。

『「わからなかったら、わからない』と書けばいいんだよ。』という働きかけで、まずは生徒の頭の中にある考えを出させるのである。頭の中を外化させる働きかけを積み重ねていくことで、生徒は素直にわからないと外化できるようになる。個人で考えた後、話し合いやクラスでのグループの発表により、意見を交流し、再度自分で考えることにより、その授業の最も大切なことを自分なりに記述できるようになる。

このように、毎時学習履歴を記述し、外化し可視化させることで段々わかっていく体験を積み重ね、まちがってもいい、最初はわからなくてもいい、でも、学んでいけばわかるようになる、できるようになると自信をつけていくのである。さらに、生徒が自己効力感を得るよう働きかけることで、主体的に活動する授業スタイルが機能し始めるのである。

自己効力感を得ることにより、もっとわかりたいと学習目標を持つようになる。受動的態度ではなく、自分の力や生徒同志で協力して学ぶという主体的な学習観を醸成し、学ぶ意欲を持ち、学び続けるようになっていく。教師は生徒が主体的に活動するよう常に働きかけ、生徒と教師がともに学習目標達成を目指す授業の在り方が本稿で主張したい授業スタイルである。

これらの全体が、メタ認知を育む仕組みであり、学習指導要領でその育成を目指す「生きる力」に迫るものであると考えられる(図12参照)。

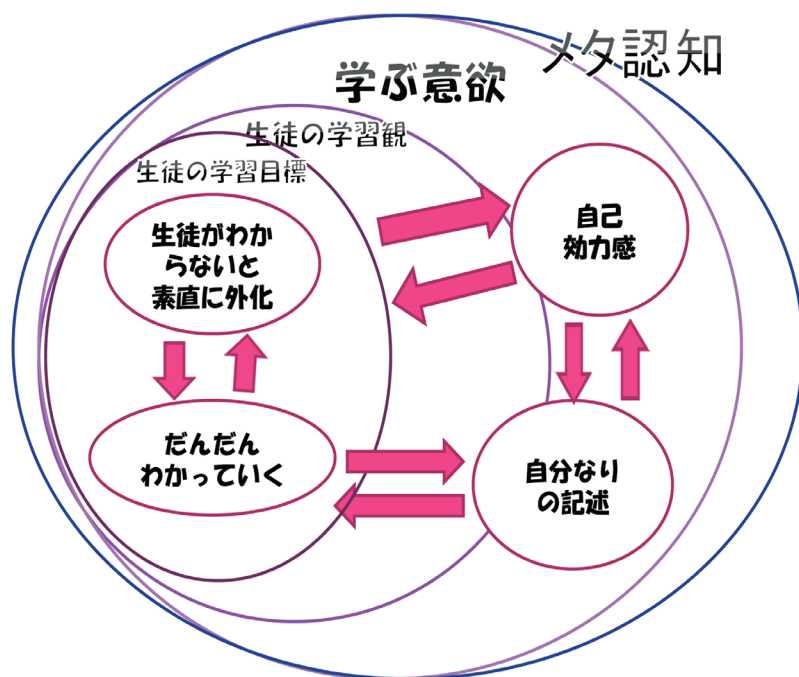


図12 メタ認知に関わる要素の関係

(附記)

本研究は、小澤が行った教職大学院での教育実習の記録をまとめたものである。堀が中心となって小澤の実習指導を行った。研究の計画実施および論文の執筆を小澤が行い、堀が加筆修正を行った。

VIII 今後の課題

OPPシートを活用することで、生徒が学習目標を持ち、その達成を目指して主体的に活動するという授業スタイルに改善できたと言えるが、すべての生徒が学習目標を持てるようになったわけではない。わからないことに劣等感を持ち、学ぶ意欲を持ってない生徒がいる。生徒が自分の考えや意見を安心して外化するには、生徒同士や、生徒と教師との信頼関係作りが必要であり、重要である。すべての生徒のメタ認知を育成し、資質・能力を育むことが今後の課題である。

IX 参考文献

堀 哲夫 (2013) 『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の紙の可能性』東洋館出版社

堀 哲夫 (2013) 「高等学校の学習指導と学習評価の工夫改善 (理科)」『中等教育資料』平成 25 年 7 月号. pp. 10-15

神澤恒治 (2012) 「OPP シートを活用した高次の学力の育成に関する研究—高校『生物 I』における 2 年間の実習を通じて授業実践がどのように変化したか—」『山梨大学大学院教育学研究科教育実践創成専攻教育実践研究報告書』 pp. 41-48

文部科学省 (2010) 『高等学校学習指導要領解説 国語編』教育出版